

令和5年度 学校評価（星城高等学校）

建学の精神	彼我一体：報謝の至誠 文化の創造 世界観の確立			
教育目標	“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成			
学校経営方針	<ul style="list-style-type: none"> 建学の精神の具現化を目指し、「“感謝のできる”実践力に富んだ逞しい人間の育成」に取り組む。その中で「礼節」「進学」「スポーツ」「国際交流」「英語」に重点を置き確実に進展させる。 明德コースの探究学習について学校全体で取り組み充実を図る。県内の全中学校・中学3年生に対し、明德コースの取り組みについてを周知徹底する。 仰星コース、特進コースについては、学力の向上、進路実績の充実を図る。 新入生500名以上を確保する。 			
重点目標	<p>I 礼節：教職員が率先して行動することで、生徒の「礼節・感謝」の徹底を目指す。</p> <p>II 進学：進路指導を充実させ、昨年度を上回る進路実績を目指す。</p> <p>III スポーツ：全国大会出場生徒数100名を目指す。</p> <p>IV 国際交流：新たな交流国を探すと共に現交流国と親交を深める。</p> <p>V 英語：各コースにおいて検定等の目標を明確にして、英語の星城を一步すすめる。</p> <p>VI 明德コース：探究学習の充実を学校全体で取り組むと共に広報活動を徹底する。</p>			
重点目標	評価項目	担当	具体的方策≪数値目標≫	実施状況（◎実施したこと *今後の改善点）
I	挨拶・身だしなみに対する意識の向上	1学年	<ul style="list-style-type: none"> ○朝のSTでの挨拶指導で、挨拶と共に身だしなみについても生徒から確認の声掛けをすることで、生徒同士で注意を合おう雰囲気を作る。 ○授業での号令に「服装を正して」という言葉を入れるよう統一することで、服装を直すことの意識を高める。 《服装頭髪検査における継続指導該当者が全体の5%以下》 	<ul style="list-style-type: none"> ◎朝のSTでの挨拶指導で、挨拶と身だしなみについての声掛けを実施できた。 *「服装を正して」の号令が毎日継続実施できたクラスが1クラスであったので、級長指導を毎月実施できるようにしたい。
I	テスト実施の在り方	教務部	<ul style="list-style-type: none"> ○厳正な態度を持って定期テストに臨むよう、ホームルーム等で生徒に指導する。 ○テスト毎に「テストに関する注意事項」を配信し、不正行為が起きない環境作りに努める。 《テスト時のトラブルゼロ》 	<ul style="list-style-type: none"> ◎「テストに関する注意事項」を毎テスト時に黒板（ホワイトボード）へ掲示し、朝のST時に生徒に周知させた。また、「テストに関する注意事項」については全職員に配信した。かつ、非常勤講師の先生には印刷したものを配布し、別途成績入力説明会を設け成績処理時に誤りの無いように周知した。 *次年度は、マニュアルを改善し、さらにテストを実施する意識を統一していきたい。
I	交通ルール遵守マナーの向上	生徒指導部	<ul style="list-style-type: none"> ○登下校時に校門にて生徒へ挨拶を行い、礼節を啓発していく。 ○愛知県警愛知署主催の「200日間自転車無事故・無違反ラリー」に参加し、交通ルール遵守を喚起していく。あわせて、このラリー期間中に、歩行通学者に対しても交通安全とマナーを喚起していく。 ○各学期の始業式後や講話などを利用して、生徒指導部から建学の精神に触れ、生徒へ礼節と感謝が自身の行動に良い変化を与えていくことを説諭していく。 《ラリー期間中の自転車と車の接触事故ゼロ》 	<ul style="list-style-type: none"> ◎朝登校時に、自転車置き場にて愛知警察の方と交通ルールの順守と自転車施設を生徒へ呼びかけた。 ◎校門にて生徒への挨拶を行い、身だしなみ、礼節について喚起した。 ◎始業式後に、江戸時代の思想家伊藤仁斎先生の教えに触れ、人間のあり方について講話した。 *今後は警察や外部団体との連携をさらに深め、交通指導やマナー指導を実施していく。（年度末3月の生徒指導部講話で外部団体の自転車指導講話を実施する）
I	健全な心身の育成	保健部	<ul style="list-style-type: none"> ○各学年で実施する教育相談講話の内容を充実させる。 第1学年では、さまざまな「性」について深く理解させて、周囲に対象者がいることを前提にした発言や行動を考えさせる。 第2学年では、「生命」への意識を向上させるために、異性との関係や正しい性の知識と行動を身につけるように考えさせる。 第3学年では、人と人との関わり合いの中で、互いを大切にす気持ちと相手を尊重する心を考えさせる。 ○保健部便り（教育相談関連）『はーとん』を発行し、生徒の心の健康を啓発する。 《各講話終了後のアンケート調査で、生徒の理解度が90%以上》 	<ul style="list-style-type: none"> ◎各学年の教育相談講話を実施した後、Classiを活用して、振り返りアンケートを実施した。生徒自身が自分のことを見つめる良い機会となった。 ◎「はーとん」を発行して、生徒たちの心の健康を啓発した。 ◎「保健だより」を発行して、生徒たちに自分の健康や生活について考える機会を与えた。 *スクールカウンセラーとの連携をさらに充実させて、より生徒たちのための心の教育を充実させたい。
I・II	個人面談の実施回数	2学年	<ul style="list-style-type: none"> ○個人面談をこまめに行い、生徒の進路についての意識を高めるとともに生徒の希望をより具体的なものとするための情報を提供したり、動き出しの鈍い生徒に対して動き出しを促したりするなどのサポートを展開する。 《各学期2回以上》 	<ul style="list-style-type: none"> ◎各クラスのLHRや朝学習、昼休み、放課後など、各担任の先生方が時間を工夫して個人面談を重ね、サポートを行った。 *引き続き生徒へのサポートを実施していく。
II	学習習慣の定着と意欲の向上	1学年	<ul style="list-style-type: none"> ○スタディーサポートの事前シートや振り返りシートを積極的に活用することで、学習に対する意識を高める。 ○朝の10分間学習を通して、学習習慣と基礎学力を身につけさせる。 《仰星・特進・アース：GTZのBゾーン以上の生徒35%以上、明德：Dゾーン以下の生徒60%以下》 	<ul style="list-style-type: none"> ◎スタディーサポートの事前シートを、夏季や冬季課題として積極的に活用した。朝の10分間学習学習に取り組み、学習習慣を身につけさせた。 *スタディーサポートの振り返りシートを活用して、復習を徹底したい。
II	模試偏差値の向上	2学年（2号館）	<ul style="list-style-type: none"> ○得意教科の向上と苦手教科の克服に向けて、集団の学力に合わせた課題設定や居残り学習などの指導を行うとともに、教員間で情報共有を密にすることで苦手分野へ学習方法などの声掛けを行う。また、各模試における目標設定を明確にして段階的に学力を高めさせる。 《5科目偏差値50.0以上「25%」》 	<ul style="list-style-type: none"> ◎放課後の学習指導や到達度に応じた課題設定を工夫し、生徒の学力向上をはかった。 *上位層と下位層の差が広がっている。コースとして上位層に重点を置いて指導をしていくが、下位層に対しても学力上昇への特別指導を継続していく。
II	評定平均値の向上および検定受検の促進	2学年（本館）	<ul style="list-style-type: none"> ○担任・教科担当で連携をとり、朝学習や小テストなどに取り組む姿勢を高めることで、定期テスト期間以外での学習習慣のさらなる定着を図る。 ○各種検定に対して、積極的に挑戦するように働きかける。 《評定クラス平均値の上昇、各種検定受検総数100名以上》 	<ul style="list-style-type: none"> ◎朝学習の時間から落ち着いた自学自習をする土台を形成できるよう、各担任による指導を行った。各種検定についても積極的な声掛けを実施した。 *家庭学習までつながる程の学習習慣構築には至らなかったが、朝学習等の取り組みは、概ね良好であった。 *検定挑戦者は増えたが、合格できない生徒も多いため、計画的な受検指導の必要性を感じた。

重点目標	評価項目	担当	具体的方策<数値目標>	実施状況 (◎実施したこと *今後の改善点)
II	進路指導の充実	第3学年	<p>○仰星・特進・アスリート特進コースにおいては、第一志望合格を目指して取り組む生徒の支援を、個人面談を通してきめ細かく行う。進路目標に違いはあるが、集団として共通テストに向けた学習を進めるように集会等通じて指導する。</p> <p>○星城大学、星城大学リハビリテーション学院のリハビリテーションへの進路を希望するものに、大学・専門学校と協力して面談等を行い内部進学を早期に勧める。</p> <p>○総合型選抜・学校推薦型選抜入試の出願先を、個人面談を通じて早期に決定させ、その必要性を説くことで昨年度に引き続き積極的に参加するよう指導する。</p> <p>《内部進学者 35名、小論文講座・志望理由書書き方講座受講 150名以上、指定校推薦50名、共通テスト出願者2号館100%》</p>	<p>◎仰星・特進・アスリート特進コースにおいては、複数回にわたる個人面談と進路検討会によって、複数の教員が関わる形で受験支援をした。</p> <p>◎星城大学や星城大学リハビリテーション学院内部進学については、5月のプレキャンパスライフの実施や1学期保護者会での説明ブースの設置、希望調査をもとにした大学・専門学校職員による面談等、大学・専門学校と連携して行った。</p> <p>◎2号館を中心とした総合型・学校推薦型選抜に向けた受験指導は、担任のよる複数回にわたる個人面談を中心に行った。</p> <p>*大学入学共通テストまでの指導は充実させることができたが、その後の入試等に向けた指導にも今まで以上に力を注いでいく。</p>
II	業務改善	教務部	<p>○ICTを有効活用し、一つひとつの業務の見直しを進め日常業務の効率化を図る。また、生徒指導要録の電子化を最重要課題とし、作成に関する注意事項を周知徹底する。</p> <p>○新学習指導要領の変更に伴う観点別評価について、評価や処理の仕方をよりよいものになるように改善をしていく。</p> <p>《業務改善の実施事案 5つ》</p>	<p>◎年間テスト時間割の作成が円滑に進むように、作成時に使用するEXCELのワークシートにマクロを組み、作成時の諸問題の確認が出来るようにした。</p> <p>◎定期テスト監督表作成時におけるミスをなくすため、作成時に使用するEXCELのワークシートにマクロを組み、作成時の諸問題の確認が出来るようにした。</p> <p>◎観点別評価についてより円滑に処理が出来るように、現在業者（エフワン）と打ち合わせを行っている。</p> <p>◎これまでの生徒指導要録作成のマニュアルを改訂し（3ページ追加）、電子化に伴う作業の注意事項を周知徹底するとともに、避けるべき表現を統一できるようにした。</p> <p>*観点別評価の処理に戸惑う状況が多く見受けられた。現在は、教務システム（e-教務）だけでは処理できない状況になっていることから、次年度に向けて改善を図っていきたい。</p>
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定・進学実績の向上 (1年)	進路指導部	<p>○1年生：英検、漢検、教検に積極的に挑戦させる。そのため、コース別集会において進路における検定の重要性を伝えながら、クラス担任による個別面談に繋げていく。</p> <p>○進研総合学力テスト11月結果データをまとめて保護者会の資料を作成し、コース選択の資料に活用して学習意欲向上に繋げる。</p> <p>《英検受験150名、漢検受験150名、教検受験30名》</p> <p>○仰星コース：学習習慣の定着と学習意欲の継続のため、スタディーサポート事前シート・活用BOOKを使用して到達目標を設定し、学習計画を立案させる。また、結果を基にした事後の振り返りシートを使用して、自己の学力状況を把握させ、第2回に繋げる。</p> <p>《担任による生徒面談を年間4回以上実施する。GTZ：S→20% A→60% B→20%(1学年61名中)》</p> <p>○特進・アステコース：コース別集会、個別面談を複数回実施し進路目標設定の動機づけを行い、国公立大学・難関私大を視野に入れた進学指導を施すとともに、地方国公立にも目を向けさせる。</p> <p>《ベネッセ総合学力テスト11月英国数3教科総合偏差値50以上が30名以上》</p> <p>○明德コース：基礎学力の定着を図り、各種検定試験へ積極的に挑戦させる。</p> <p>《進級時のGTZのDゾーンを60%以下》</p>	<p>◎1年生：担任の個別面談等で検定受験の必要性を促した。</p> <p>*英検に対する意欲が高められている。漢検に関しても今後動機づけを考えていく。</p> <p>◎11月模試のデータを保護者会資料として活用できた。</p> <p>*進研模試に関しては今後も過去問対策などを実施して意欲を高めたい。</p> <p>◎仰星コース：事前シートや活用BOOK、振り返りシートを利用して指導した。</p> <p>*Sゾーン+A1ゾーン合わせて14名をどう伸ばしていくかが鍵となる。</p> <p>同時にB3ゾーン3名の意欲を高める指導をしていく必要がある。（Dゾーン該当者無し）</p> <p>◎担任による個別面談を複数回実施し、進路目標設定の動機づけを行った。</p> <p>*今後も国立大学・難関私大の受験に繋がる取り組みになるよう指導していく。</p> <p>◎明德コース：HRや個別面談での指導により、目標を大きく超えた結果となった。基礎学力がある程度備わった生徒集団であることが分かった。</p> <p>*今後も進学実績に繋げるべく進路指導をしていきたい。</p>
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定・進学実績の向上 (2年)	進路指導部	<p>○2年生：進研総合学力テスト11月結果データをまとめて保護者会の資料を作成し、進路選択の資料に活用して学力向上に繋げる。各種検定に積極的に挑戦させる。</p> <p>《英検受験200名、漢検受験100名、教検受験10名》</p> <p>○仰星コース：早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。</p> <p>《ベネッセ総合学力テスト11月において、国英数総合偏差値50以上が30名。(2学年46名中)》</p> <p>○特進・アステコース：早い段階で各自の得意・不得意科目や学習時間・学習スタイルを把握・振り返らせ、入試を意識した計画を立案させる。</p> <p>《ベネッセ総合学力テスト11月において、英国数、英国社、英教理いずれかの3教科総合偏差値50以上が30名以上》</p> <p>○理・文コース：担任・教科担当が連携をとり、朝学習や小テストなど、定期テスト期間以外の学習習慣の定着を進めて評定平均値を上昇させる。</p> <p>《評定平均値 クラス平均の上昇》</p> <p>○多様な進路獲得の実現に向けて各種検定を積極的に受験させる。</p> <p>《各種検定 総受験者数100名以上》</p>	<p>◎2年生：模試の重要性や検定の必要性を説明して、積極的に取り組む姿勢を養った。</p> <p>*推薦の基準改正によって、検定に対する取り組みに変化が見られる。来年度は指定校推薦を活用した受験指導を形作る。</p> <p>◎仰星コース：模試等の結果から振り返り指導を行い、入試を意識させた。</p> <p>*第一志望合格にむけて、データを分析し弱点を補強する指導をしていく。</p> <p>◎特進・アステコース：模試等の結果から振り返り指導を行い、入試を意識させた。</p> <p>*成績の二極化が見受けられた。2つのボリュームゾーンにどう指導をしていくかが課題となる。</p> <p>◎理・文コース：令和6年度推薦内規の説明をする中で、内部推薦、総合型選抜、指定校推薦、公募制推薦などの受験方針を捉えさせて進路決定への方向性を定めた。</p> <p>*総合型選抜の出願指導が最大のポイントとなるため、講話などを通じて伝えていきたい。</p> <p>◎担任等から検定の重要性を説明して、受験者数につなげた。</p> <p>*受験者数が大幅に増加している。検定資格を入試にどう生かすかを検討する。</p>
II	学習習慣の定着と進路目標の早期設定・進学実績の向上 (3年)	進路指導部	<p>○3年生：スタディーサポート等のデータを基に面談を行い、進学・就職の目標を達成するための一助とする。</p> <p>《仰星GTZ B2以上50%、特進・アステGTZ B2以上50%、理・文GTZ Dゾーン50%以下》</p> <p>○仰星・特進・アステコース：学級担任による面談の回数・内容を充実させ、志望校合格に向けた「受験プラン」を早期に立てさせる。また、全員が共通テスト5教科型を受験し、国公立大学出願の可能性を広げる。</p> <p>《国公立大学出願者70名以上、国公立大学合格者20名》</p> <p>○理・文コース：進研模試結果6月をもとに保護者会で目標設定をし、推薦基準となる9月の模試に向けた動機づけをしっかりとさせる。星城大学、星城大学リハビリテーション学院合わせ、内部進学を早期に勧める。総合型選抜・学校推薦型選抜入試の出願先を、個人面談を通じて早期に決定させ、その必要性を説き各種講座に昨年度に引き続き積極的に参加するよう指導する。</p> <p>《内部進学者 35名、小論文講座・志望理由書書き方講座受講 150名以上、指定校推薦50名》</p>	<p>◎担任による面談を複数回実施したことで、仰星コースは目標を達成している。</p> <p>特進・アステコースは、目標に満たないものの仰星と同人数の偏差値50程度が存在することで2号館では大きな受験生の群れを形成していると考えられる。</p> <p>理・文コースでは、受験の大きな転換期がきている。総合型選抜入試によって偏差値で大学受験を考える時代は終わろうとしている。</p> <p>*それぞれのターゲット大学によって、学びの内容を考えていく必要がある。</p> <p>◎仰星・特進・アステコース：1学期末に進路検討会を実施し、その後も進路検討会を適宜開催している。担任だけでなく2号館代表者も一丸となって生徒達の進路を検討することで進路実績は向上した。</p> <p>*進路検討会の時間帯を来年度は大幅に広げてより丁寧な出願指導をしていく。</p> <p>◎理・文コース：内部進学を積極的に進めるとともに総合型選抜や学校推薦型選抜に必要な学力や資格等を理解させた。</p> <p>*来年度からは、指定校推薦の仕組みが変わるため、今回以上に実績は向上するだろうと考える。</p>

重点目標	評価項目	担当	具体的方策《数値目標》	実施状況 (◎実施したこと *今後の改善点)
II	探究学習 (グローバル探究) の充実	探究部 (仰星・特進 コース)	<p>○仰星・特進コース全学年の「総合的な探究の時間」において、グローバルな視点を持ってローカルな課題(地域課題)を解決する活動を実施することで、さまざまな立場の豊明市民が輝く新たな架け橋をつくれるように、授業内容の充実を図る。</p> <p>○グローバル探究を通して主体的・協働的に取り組む態度を育成し、それが大学受験等に向けた学習においても自ら学びに向かう姿勢として表れるように導く。また、地域との協働において、地域課題解決に取り組むことで社会貢献に対する意識を高め、自らの進路選択に真剣に向き合うように導く。</p> <p>《ルーブリック4段階自己評価の集計 A:主体性と協働力の両項目でレベル4と3の生徒が半数以上 B:どちらかの項目でレベル4と3の生徒が半数以上 C:主体性と協働力の両項目でレベル2以上の生徒が半数以上 D:どちらかの項目でレベル2以上の生徒が半数以上》</p>	<p>◎障がい者・子育て世代・LGBTQ+等さまざまな立場の豊明市民の地域課題について考えて活動した。</p> <p>◎1年生は花植え活動・交流会の反省を基に課題解決策をポスターセッションにて提言した。</p> <p>◎2年生は分野別協議会で協働団体より地域課題解決への助言を受け、探究デーにて実行し、ポスターセッションとして取り組み内容を発信した。</p> <p>◎3年生は1・2年生での活動を振り返り、探究レポートとしてまとめ進路実現に向けての取り組みを行った。</p> <p>*活動時間が短いため、地域協働を行うことが難しい状況である。今後は、研修旅行の内容についても授業と関連つけた新たな探究活動として、授業内容を今一度検討し、グローバル探究を再構築していく。</p>
III	強化部の 入学生徒 増加と 人間性の 向上指導	部活動支援	<p>○「スポーツの星城」の推進を図るために、広報部及び各顧問との連携を強化する。具体的には、生徒募集の現状を把握して問題の解決を図り、強化部の入学生徒増を目指すとともに全国大会(選抜・総体・国体)出場者が増えるように支援を行う。</p> <p>○日々の部活動指導を通じて、「本校が求める強化クラブ・スポーツ奨学生のあるべき姿」を生徒自身に考えさせ、具現化を目指すと共に、人間性と技術面の向上を図る。</p> <p>○周囲の方々から応援していただける部活動運営や生徒育成に向けて、庶務・国際交流部と連携し、ボランティア清掃参加呼びかけや実施などのサポートを行う。</p> <p>《部活動の生徒募集による入学者数110名確保/全国大会出場生徒数100名》</p>	<p>◎広報部と連携を取り強化クラブ顧問会議を6月に開催し、今年度のスカウトに向けたスカウト枠や注意事項等の説明を行った。</p> <p>リコンディショニングセンター設置について(現在未実施)、各顧問とのコミュニケーションをとり、「スポーツの星城」への熱意や意識、疑問をアンケートで確認することができた。</p> <p>◎3月に強化クラブ顧問会を実施し、スカウトも含めた一年間の総括を行う予定である。</p> <p>*強化クラブ顧問間のコミュニケーションを図り、意思疎通のできる状況の下、協体制度を構築し、連携を取って学校の活性化を図りたい。</p>
III	部活動ガイド ラインに 則った 部活動運営 の把握と 管理	部活動支援	<p>○各クラブの活動計画に基づいて部活動の現状を把握し、運営・管理を徹底する。</p> <p>○「部活動指導ガイドライン」や「部活動に係る活動方針」に則った部活動の運営を徹底し、体罰等のない健全な部活動運営を行う。</p> <p>○部活動施設の設備の点検など安全管理を徹底し、事故発生の防止に努める。</p> <p>《部活動における不祥事0件》</p>	<p>◎クラブ活動調査、大会日程、大会結果、部員数を把握した。また、部活動による体罰の案件は0件であった。</p> <p>*部活動に対する多様な意見への対応が十分ではなかったため、今後、取り組んでいく。</p> <p>*各クラブにどこまで踏み込んで良いのかが顧問によって違い、相談できる環境を整えたい。</p>
III	NPOスター アカデミー 活用の模索	NPO	<p>○NPOスターアカデミーの現状を確認・把握し、本校でどのように活用できるか模索する。</p> <p>○他校における事例・事例を調査し、本校に合った企画を立案する。</p> <p>○部活動・進学講座・その他の3方面の視野で模索する。</p> <p>《活用企画の提案2企画以上》</p>	<p>◎リコンディショニングセンターの企画を立案した。また、働き方改革において、クラブチーム活動への提案をし、本校でのスターアカデミーの活用を模索した。</p> <p>*スターアカデミーとのコミュニケーションを図る。</p>
IV	交流国と 親交を 深める	庶務・国際 交流部	<p>○新型コロナウイルス感染症による行動制限が緩和されるのを受けて、海外の高校生や同世代の若者と本校の生徒の間でオンライン交流や直接的な親睦を深める企画を立案する。</p> <p>《オンラインまたは直接的な交流回数がA:4件以上、B:3件、C:2件以下》</p>	<p>◎ブルガリア交換留学生10名を受け入れ、ホストファミリーを中心に交流を行った。星城中学・星城大学・豊明市国際交流協会との交流も行った。</p> <p>*コロナが5類に分類されたことにより国際交流が再開されはじめている。よって、今後は活発に交流する機会を増やしたい。</p>
IV	留学生の 受け入れと 派遣	庶務・国際 交流部	<p>○1か年留学生や短期留学生、交換留学生の受け入れと派遣を、業者や豊明市国際交流協会などの協力を得ながら再開・充実させることができるように企画する。</p> <p>《A:短期留学生の派遣ができた、B:1か年留学生および短期留学生の受け入れができた、C:派遣および受け入れができなかった》</p>	<p>◎ブルガリア交換留学生10名の受け入れ、オーストラリアからの1か年留学生(JDRAC)の受け入れを行った。また、とびたて留学ジャパンが再開され1名の申し込みを行った。</p> <p>*ブルガリアとオーストラリアへの派遣を検討中であるが、費用が以前より高額となるという課題があるため、費用と内容や日程等のバランスを整えたい。</p>
VI	探究学習 (未来 探究) の充実	探究部 (明德 コース)	<p>○1・2年の「総合的な探究の時間」において、社会未来探究と世界未来探究のカリキュラムを開発し、その授業を実践する。</p> <p>○1年はSDGsを通して社会課題を自分事として捉え、その原因や解決策の検討などに協働して取り組む態度を育成する。</p> <p>○2年はフィールドワークによる情報収集を通して自分の意見をまとめ、発表などによる内容の共有を通して課題の解決に協働して取り組む態度を育成する。</p> <p>《ルーブリック4段階自己評価の集計 A:主体性と協働力の両項目でレベル4と3の生徒が半数以上 B:どちらかの項目でレベル4と3の生徒が半数以上 C:主体性と協働力の両項目でレベル2以上の生徒が半数以上 D:どちらかの項目でレベル2以上の生徒が半数以上》</p>	<p>◎毎週月曜3限に主幹・学年主任・探究部で探究開発会議を設けその週の総合探究の授業内容の検討を行った。また、1年、2年の担任に実行委員会にて授業内容と留意点など伝達し、授業を実践した。</p> <p>◎1年はSDGsを通じ社会課題の原因や解決策の検討し、2年はフィールドワークを通じて自分の意見をまとめ、課題の解決を協働的に取り組んだ。</p> <p>*1年社会未来探究の内容の向上と2年の研修旅行に向けた授業改善や生徒のプレゼンテーション能力の向上に向けた方策を検討する。</p> <p>*生徒の自己評価は高く感じるが、協働的に活動できるも、主体的に活動できる生徒は一部であり、次年度は主体的に活動できる生徒を増やせる授業展開を行いたい。</p>
VI	明德コース の活動を 広報する	広報部	<p>○中学校訪問・保護者対象説明会・学校見学会などでブログを閲覧していただくように促すことで、学校のさまざまな活動に興味や関心をもっていただく。</p> <p>《各説明会でQRコードを配付する。》</p> <p>○愛知県下の中学3年生に対して、6月にはパンフレット、9月には明德コースリーフレットを配付し取り組みを広報する。</p> <p>《重点校155校の中学3年生全生徒に配付する。》</p>	<p>◎今年度からプログラム科目が始まったため、プログラム科目のみの広報チラシを作成し、中学校・学校見学会・保護者対象説明会で配布した。チラシ作成の際、開講しているプログラム科目に対する生徒の感想を聞き取ったり、授業風景の写真撮影を行ったりして、ブログの投稿を行った。</p> <p>◎8月以降の全ての説明会ではブログ閲覧へ誘導するため、QRコードのみの簡易チラシを作成し配布した。10月以降の説明会では、生徒の感想や授業風景の写真をもとにプログラム科目に特化したリーフレットを作成し、説明会や中学訪問の際に配布した。</p> <p>*プログラム科目については、ブログ投稿数が少ないため、授業担当の方々の負担にならないように部・係を付けるように働きかけたい。</p>